

事業間連携砂防等事業再評価調書

路線・河川等名	いのたにがわ 猪ノ谷川	事業名	事業間連携砂防	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所(区間)	京都市左京区八瀬秋元町		
事業概要	目的	猪ノ谷川は京都市左京区八瀬秋元町に位置し、保全対象として人家5戸、市道170mを含む溪流である。平成20年度までに堰堤2基が完成しているが、その後の降雨により上流堰堤の右岸山腹が崩壊し、除石による緊急対応を行っている。土質調査では崩壊可能土砂量は約20,000m ³ と推定されており、今後の降雨により一気に流出すると一級河川高野川が閉塞し周辺の人家52戸、市道、八瀬保育園が浸水する恐れがあるため、対策工事を実施する。			
	内容	排水路工、法面工 全体事業費 ; 2.0億円			
	上位計画等	京都府総合計画、社会資本総合整備計画			
	進ちよく状況及び今後の見込み	既設堰堤の上流部において、降雨による山腹崩壊が発生しており、今後、崩壊法面を保全するための法面对策工事に着手予定。			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等の変化	既設堰堤2基の保全対象には人家52戸及び保育園が含まれているが、今後の降雨により、一気に山腹から土砂流出があった場合は、一級河川高野川が閉塞し、河道閉塞により広範囲に浸水する恐れがあるため、地域住民に与える影響は大きい。			
事業の有効性	事業の投資効果及びその要因の変化	土石流等の土砂災害から下流に存在する人家、市道、要配慮者利用施設を守り、人命を保全する事業であり、投資効果は大きい。			
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	既存砂防堰堤を有効利用し、法面对策工法として地形の改変を最小限に抑え、自然環境への負荷軽減に努める。 また、現地発生土を極力発生させない工法を用いることで、総事業費のコスト縮減を図る。			
総合評価	本事業は、土砂災害からの人命保護及び地域の安全確保の観点から引き続き事業を継続する必要がある。				

いのたにがわ
淀川水系 猪ノ谷川 事業間連携砂防等事業

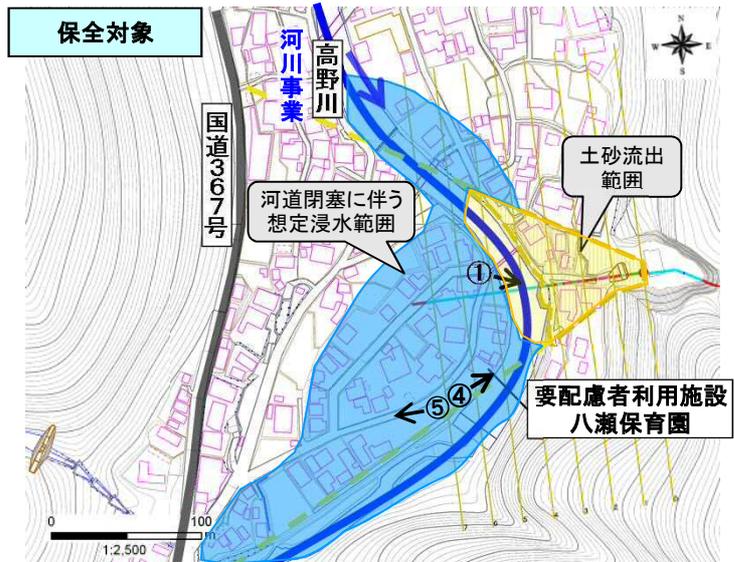
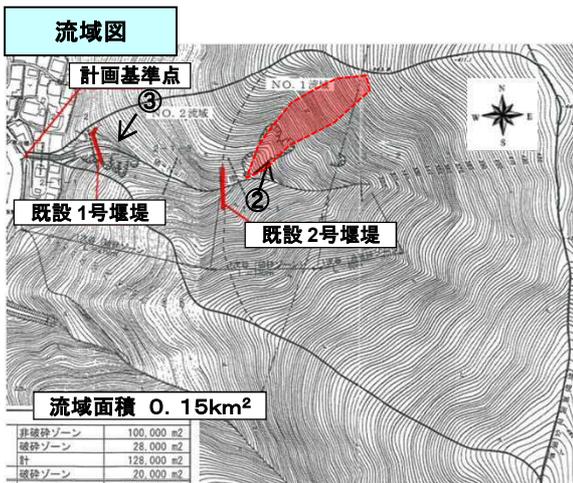
きょうとふ きょうとしさきょうく やせあきもとちょう
 京都府 京都市左京区 八瀬秋元町

◎事業目的

猪ノ谷川は京都市左京区八瀬秋元町に位置し、保全対象として人家5戸、市道170mを含む溪流である。平成20年度までに堰堤2基が完成しているが、その後の降雨により上流堰堤の右岸側山腹が崩壊し、堰堤の堆砂容量を上回る土砂流出が発生している。除石による緊急対応を行っているものの、ボーリング調査により崩壊可能土砂量は約20,000m³と推定されており、今後の降雨により一気に流出すると1級河川高野川が埋塞し周辺の人家52戸、市道、八瀬保育園が浸水する恐れがあるため、対策工事を実施する。

◎事業概要

全体計画	R元年度までの実績	R2年度
H27～R3 詳細設計 排水路工、法面工 総事業費 200百万円	詳細設計 C=17百万円	土質調査 詳細設計 C=60百万円



『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	令和3年2月22日		
		作成部署	建設交通部砂防課		
事業名	猪ノ谷川 事業間連携砂防事業	地区名	京都市左京区八瀬秋元町		
概算事業費	2億円	事業期間	平成27年度～令和5年度		
事業概要	法面工、排水工				
目指すべき環境像	事業箇所周辺は、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、事業実施に当たっては、自然環境に与える影響を可能な限り小さくするよう配慮する。 また、土砂災害の発生を防止する事業であり、地域住民の安心・安全を確保すると共に、動植物の生育環境と長期的な環境の保全により、地域の生活環境の保全に寄与する。				
関連する公共事業	なし				
評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価	
主要な評価の視点	選定要否				
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)	法面が崩壊し、溪床には崩壊に伴う土砂や流木が堆積しているため、荒廃の進行を防止し、それに伴う溪流周辺の地形の保全を図る必要がある。 流域において、指定希少野生生物が生息している可能性がある。	法面工、谷止工及び排水工を整備することで、法面崩壊を抑制し、現地形の保全と植生の回復を図る。 野生動物の個体の生息又は生育の環境への影響を最小減となるよう配慮する。		
	地形・地質			○	3
	物質循環(土砂移動)			○	4
	野生生物・絶滅危惧種			○	3
	生態系			○	3
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	溪流下流に住宅地や私道が位置しているため、工事期間中の土壌流出や騒音・粉じんを抑制する必要がある。また、建設発生材を極力リサイクルする必要がある。	工事実施中は、低騒音機械を使用することを原則とする。発生する工程では、散水や防塵シートを使用する等、周辺環境に支障を及ぼさないよう配慮する。建設発生材は、当該工事や近隣の公共工事、民間工事と調整し、再利用に努める。		
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動			○	3
	廃棄物・リサイクル			○	3
	化学物質・粉じん等			○	3
	電磁波・電波・日照				
その他					
地域個性・文化環境	景観	溪流下流の高野川沿いに集落が形成されており、豊かな自然環境や景観に恵まれていることから、植生等の環境の改変を最小限に止める必要がある。	材料の選定においては、地域の自然環境との調和を図るように努める。地域住民に対して行う工事説明会等は、防災に対する意識向上を図り、地域住民との協働につながるよう検討する。	5	
	里山の保全				
	地域の文化資産				
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働			○	4
その他					
外部評価					